

## B-1

# 北琉球奄美大島方言の助詞 ba の二つの機能 —対格標示と取り立て—

重野裕美（奄美看護福祉専門学校）shigenohrm.58@gmail.com

白田理人（志學館大学）shiratarihito@gmail.com

### 要旨

本発表は、北琉球奄美大島方言における助詞 ba の機能と分布について、北琉球諸語内の他の言語変種との相違も踏まえながら明らかにすることを目的とする。先行研究によれば、奄美大島方言において、直接目的語は無助詞で現れるか対格助詞 ba が後接する。発表者の調査により、助詞 ba に、対格標示に加え、事態の成立に関して想定される他の候補よりも優先されることを表す取り立て助詞としての機能があることが分かった。まず、命令文・意志文・勧誘文では、助詞 ba は対格助詞ではなく取り立て助詞としての機能を持ち、主語にも後接しうる。次に、文タイプによらず、助詞 ba は間接目的語＋与格助詞に後接して取り立て助詞として機能しうる。管見の限り、助詞 ba が取り立て助詞としての機能を持つのは北琉球諸語で奄美大島方言のみである。北琉球諸語内で有標の対格助詞 ba を用いる方言として奄美大島方言の他に喜界島方言が挙げられるが、取り立て助詞の機能は見られない。

### 1. はじめに

奄美大島方言は、鹿児島県の奄美群島のうち、奄美大島と隣接する加計呂麻島・請島・与路島で話されている。また、琉球諸語のうち北琉球諸語に属する言語変種である（cf. 図1）。

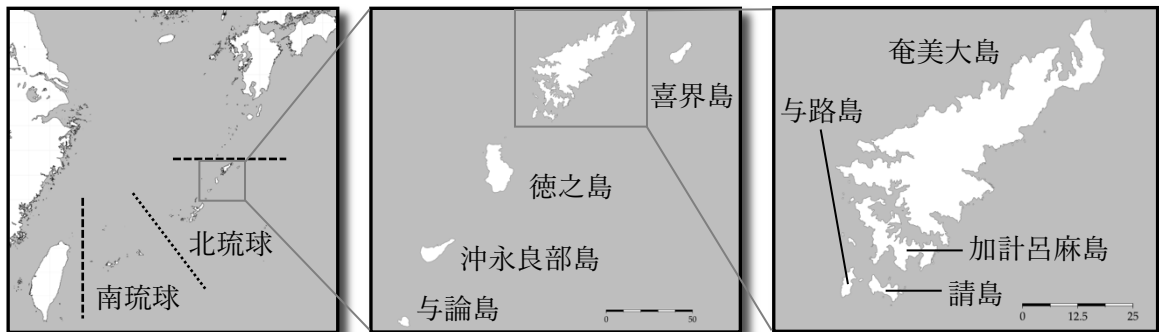


図1：琉球列島／奄美群島／奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島<sup>1</sup>

奄美大島（及び南部の島嶼部）には70余の集落があり、語彙面・音韻面・形態面に渡る方言差から北大島方言（奄美市笠利町・龍郷町・奄美市名瀬・奄美市住用村・大和村）と南大島方言（瀬戸内町・宇検村）に大別される（上村1992:780）。本発表では、発表者が収集したデータ<sup>2</sup>に基づき、奄美大島方言内における助詞 ba の機能と分布について、北琉球諸語内の他の言語変種との相違も踏まえながら記述・考察する。用例の表記には小川（2015）で提案されたアルファベット表記法を用いる。

<sup>1</sup> 国土地理院発行のデータから Thomas Pellard 氏(CRLAO)が作成した地図を編集して用いている。

<sup>2</sup> データは、発表者が2016~2020年に奄美市笠利町佐仁集落出身・在住の70代男性1名・女性1名、龍郷町浦集落出身・在住の90代女性1名・80代男性1名・80代女性2名、大和村今里集落出身・在住の80代女性1名、瀬戸内町（加計呂麻島）芝集落出身・在住の80代女性1名、瀬戸内町（請島）池地集落出身・古仁屋集落在住の90代男性1名、瀬戸内町（与路島）与路集落出身・在住の90代男性1名・90代女性1名・80代男性1名、喜界島のデータとしては喜界町志戸桶集落出身・在住の80代女性2名を協力者とする聞き取り調査で得たものを用いる。

## 2. 背景

奄美大島方言では、直接目的語は無助詞で現れるか、対格助詞 **ba** が後接する（三石 1983, 野原 1989, 三石 1993, まつもと 1993, 蘇 2009, Niinaga2014, 重野 2016, 以下例参照）。

- (1) *saburo = ya ari(=ba) koyotĩ = na?* (まつもと 1993:150, 龍郷町瀬留)  
三郎 = TOP あれ = *ba* 買う .POL.PST = SFP  
「三郎はあれを買いましたか？」

龍郷町瀬留方言について、まつもと (1993) は、ヒト代名詞／ヒト固有名詞や、特定／限定されたヒト／モノを指す名詞の場合などに助詞 **ba** が用いられることを指摘している。三石 (1983:66) は、加計呂麻島芝方言について「ふつう目的格助詞を用いないが、選択の余地のあるものから一つをとり出して「まず最初にこれを～する」という場合にかぎり **ba** を用いる」と指摘している。

- (2) *kuri = m sirambanarambam shentak = ba sak siroo.* (三石 1983:66, 瀬戸内町芝方言)  
これ = も する .OBLG.ADVRS 洗濯 = *ba* 先 する .INT  
「これもしなくてはならないが、洗濯を先にしよう。」

ただし、三石 (1983) で「まず最初にこれを～する」という文脈に当てはまる用例は、命令文／意志文／願望文のみで、平叙文では、そのような文脈でなくても **ba** の用例が見られる。

- (3) *apnesan kut'u(=ba) shur = yaa.* (三石 同上, 瀬戸内町芝方言)  
危ない .ADJ.NPST こと (=ACC) する .NPST = SFP  
「冒険をするね。」

三石以外に、上村 (1960:12)・野原 (1989:45)・蘇 (2009:107) においても「強調する」「強く目的物を指示する」ときに助詞 **ba** が用いられるとの指摘がある。

一方で、発表者は与路島方言において、三石の指摘したのと同様の文脈で、命令文の主語にも助詞 **ba** が後接しうることを報告している。

- (4) *nam = ba sak { noree. / kun k'washi moshoree. }* (重野・白田 2017:143, 与路島)  
2SG.HON = *ba* 先 { 乗る .IMP / この菓子 .ACC 食べる .HON .IMP }  
「あなたが {先に乗れ。／この菓子を召し上がれ。}」

なお、北琉球諸語において、奄美大島方言以外で対格助詞 = **ba** が見られるのは、管見の限り、喜界島方言のみである (岩倉 1941, 内間 1978, 野原 2008, 下地 2011)。なお、北琉球諸語のその他の地域変種では基本的に有形の対格標示は用いられず、直接目的語は無助詞で現れる。

本発表は、北琉球奄美大島方言における助詞 **ba** の機能と分布について、北琉球諸語内の他の言語変種との相違も踏まえながら明らかにすることを目的とする。なお、特に言及しない場合は、用例はすべて大和村今里方言のものをを用いる。他方言で類例が得られた場合には〈 〉内に地点を併記する。

## 3. 助詞 **ba** の機能と分布

### 3.1 対格助詞としての機能

助詞 **ba** は対格助詞としての機能を持つ。情報構造とは関わりなく、疑問の焦点の場合にもそうでない場合にも用いられる。また、主題助詞／焦点助詞が後接しうる。ただし、芝・池地では主題助詞の後接は許容されない。

- (5) tag = ga taro = **ba** abiitii? (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
誰 = NOM 太郎 = *ba* 呼ぶ.PST  
「誰が太郎を呼んだ？」
- (6) taro = ya tab = **ba** abiitii? (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
太郎 = TOP 誰 = *ba* 呼ぶ.PST  
「太郎は誰を呼んだ？」
- (7) ari = ya nii = **ba = du** abiita = kai?  
3SG = TOP 兄 = *ba* = FOC 呼ぶ.PST = SFP  
— aran ututu = **ba = du** abiitad = doo. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
COP.NEG.NPST 弟 = *ba* = FOC 呼ぶ.PST = SFP  
「彼は兄を呼んだのかな？—いいえ、弟を呼んだよ。」
- (8) ak'ira = ga tab = **ba = ga** ucc'haro wani = n = na wakaran. (今里；白田 2020:155)  
アキラ = NOM 誰 = *ba* = FOC 打つ.PST.INFR 1SG = DAT = TOP 分かる.NEG.NPST  
「アキラが誰を殴ったのか私には分からない。」
- (9) taro = **ba = ya** tag = ga abiitii? (今里)  
太郎 = *ba* = TOP 誰 = NOM 呼ぶ.PST  
「太郎は誰が呼んだ？」
- (10) wan = na unagi( = **ba**) = ya kaman = doo. (今里) 〈佐仁・浦〉  
1.SG = TOP ウナギ( = *ba*) = TOP 食べる.NEG.NPST = SFP  
「私はウナギは食べないよ。」
- (11) hinja = ya { kap = **pa** / \*kab = **ba = ya** } kamam. (池地) 〈芝〉  
ヤギ = TOP { 紙 = TOP / 紙 = *ba* = TOP } 食べる.NEG.NPST  
「ヤギは紙は食べない。」

### 3.2 取り立て助詞としての機能

助詞 *ba* は命令文・意志文・勧誘文の場合、事態の成立に関して想定される他の候補よりも優先される文脈において、主語に後接しうる。自動詞文のみならず他動詞文においても助詞 *ba* の主語への後接が見られる。以上から、助詞 *ba* には、対格標示機能とは別に、取り立て助詞（益岡・田窪 1992 参照）としての機能があると考えられる。なお、命令に類似した、条件形や否定疑問形を用いた聞き手への行為の促し・提案の場合にも主語に助詞 *ba* が後接しうる。

- (12) { y'aa = ga / y'aa = **ba** } sak'i hwuni = kachi nuri. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地・与路〉  
{ 2SG = NOM / 2SG = *ba* } 先 船 = ALL 乗る.IMP  
「お前が先に船に乗れ。」
- (13) { waa = ga / wan = **ba** } sak'i hwuni = kachi nuro = yee. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
{ 1SG = NOM / 1SG = *ba* } 先 船 = ALL 乗る.INT = SFP  
「私が先に船に乗ろうね。」

(14) { waakya=ga / waakya=**ba** } sak'i hwunī=kachi nuro=yee. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
 { 1PL=NOM / 1PL=*ba* } 先 船=ALL 乗る.INT=SFP  
 「私たちが先に船に乗ろうね。」

(15) { y'aa=ga / y'aa=**ba** } sak'i nigiri kawū. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地・与路〉  
 { 2SG=NOM/2SG=*ba* } 先 おにぎり 買う.IMP  
 「お前が先におにぎりを買え。」

(16) { y'aa=ga / y'aa=**ba** } sak'i { nurībaa. / nuran=naa? } (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
 { 2SG=NOM / 2SG=*ba* } 先 { 乗る.IMP / 乗る.NEG.NPST=SFP }  
 「お前が先に船に { 乗れば。 / 乗らないか? }」

なお、命令文・意志文（及びこれに類する文タイプ）では、基本的に直接目的語は無助詞で現れ、助詞 *ba* をつけると、他の候補より優先される含意が生じるようである。

(17) nuu=garo atan t'iki=n=nya {wan(=**ba**) abīrī. / y'aa(=**ba**) abīro=yee. } (今里) 〈浦〉  
 何=か ある.PST とき=DAT=TOP {1SG(=*ba*) 呼ぶ.IMP / 2SG(=*ba*) 呼ぶ.INT =SFP }  
 「何かあったときには { (まず) 私を呼べ。 / (まず) お前を呼ぼうね。 }」

命令文・意志文（及びこれに類する文タイプ）以外の場合、助詞 *ba* は基本的に対格助詞として機能する（3.1 参照）ため、他の候補より優先される文脈でも主語に助詞 *ba* が後接することはない。

(18) it'in { y'aa=ga / \*y'aa=**ba** / waa=ga / \*wan=**ba** }  
 いつも { 2SG=NOM / 2SG=*ba* / 1SG=NOM / 1SG=*ba* }  
 sak'i hwunī=kachi nurud=diyaa. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
 先 船=ALL 乗る.NPST=SFP  
 「いつも { お前が / 私が } 先に船に乗るよね。」

ただし、助詞 *ba* が間接目的語 + 与格助詞に後接する場合には、取り立て助詞として機能しうる。この場合は、文タイプに左右されず、命令文・意志文のみならず、平叙文でも用いられる。

(19) dushi=n=**ba** sak'i k'ippu { k'urīrī. / k'urīroo. } (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
 友達=DAT=*ba* 先 切符 くれる.IMP くれる.INT  
 「友達に先に切符を { やれ。 / やろう。 }」

(20) y'aa=ya it'in wani=n=**ba** sak'i k'ippu kurīrud=diyaa. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
 2SG=TOP いつも 1SG=DAT=*ba* 先 切符 くれる.NPST=SFP  
 「お前はいつも私に先に切符をくれるよね。」

(21) wan=na it'in y'ani=n=**ba** sak'i k'ippu kurīrud=diyaa. (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
 1SG=TOP いつも 2SG=DAT=*ba* 先 切符 くれる.NPST=SFP  
 「私はいつもお前に先に切符をやるよね。」

以上のうち、助詞 *ba* が（直接目的語以外の項に後接して）取り立て助詞として機能しうる場合の共通点として、助詞 *ba* が後接する項の格関係が他の形式によって示されていることが挙げられる。すなわち、命令文・意志文などでは、述語の活用形によって2人称もしくは1人称が主語であることが示され、また、間接目的語に助詞 *ba* が後接する場合には、与格助詞によって格関係が示されている。

なお、取り立て助詞 *ba* は浦では *bara* という形式でも現れる。

- (22) *nan = ba(ra)* saki mishoran = na? (浦)  
2SG.HON = *ba(ra)* 先 食べる.HON.NEG.NPST = SFP  
「あなたから先に召し上がらないか？」

- (23) *y'a = nji = ba(ra)* saki yarasoo. (浦)  
2SG = DAT = *ba(ra)* 先 やる.INT  
「お前から先にやろう。」

#### 4. 取り立て助詞の *ba* と焦点助詞 *du* の相違点

助詞 *ba* の取り立て助詞としての機能と類似した機能を持つものとして焦点助詞 *du* があるが、助詞 *ba* と異なり基本的に命令文・意志文などには用いられない。

- (24) *it'in* { *y'aa = ga* / *y'aa = du* / *waa = ga* / *wan = du* }  
いつも { 2SG = NOM / 2SG = FOC / 1SG = NOM / 1SG = FOC }  
*sak'i hwuni = kachi nurud = diyaa.* (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
先 船 = ALL 乗る.NPST = SFP  
「いつも {お前が／私が} 先に船に乗るよね。」

- (25) { *y'aa = ga* / *y'aa = ba* / *\*y'aa = du* } *sak'i hwuni = kachi nurii.* (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
{ 2SG = NOM / 2SG = *ba* / 2SG = FOC } 先 船 = ALL 乗る.IMP  
「お前が先に船に乗れ。」

- (26) { *waa = ga* / *wan = ba* / *\*wan = du* } *sak'i hwuni = kachi nuro = yee.* (今里) 〈佐仁・浦・芝・池地〉  
{ 1SG = NOM / 1SG = *ba* / 1SG = FOC } 先 船 = ALL 乗る.INT = SFP  
「私が先に船に乗ろうね。」

#### 5. 奄美大島方言の助詞 *ba* と喜界島方言の助詞 *ba* の相違点

先行研究によれば、喜界島方言のうち、阿伝集落、志戸桶集落など一部の集落では *ba* が、その他の集落では *yooba/woba* など、*ヲ* と同源の部分も含む形式が用いられている(岩倉 1941, 内間 1978, 野原 2008, 下地 2011)。

- (27) *uttu = ba abirasui.* (志戸桶 ; 内間 1978:113)  
弟 = *ba* 呼ぶ.CAUS.NPST  
「弟を呼ばせる。」

発表者の調査によれば、志戸桶方言の助詞 *ba* には、奄美大島方言の助詞 *ba* のような、取り立て助詞としての機能は観察されなかった。

- (28) { *da = ŋa* / *daa = kara* / *\*daa = ba* } *saki(=ni) nuriba.* (志戸桶)  
{ 2SG = NOM / 2SG = ABL / 2SG = *ba* } 先(=DAT) 乗る.COND  
「{お前が／お前から} 先に乗れば。」

- (29) *wanoo itsumu* { *dushi = ni* / *dushi = kara* / *\*dushi = ni = ba* } *saki(ni) turasun = doo.* (志戸桶)  
1SG.TOP いつも { 友達 = DAT / 友達 = ABL / 友達 = DAT = *ba* } 先(=DAT) やる.NPST = SFP  
「私はいつも {友達に／友達から} 先にやるよ。」

## 6. まとめと課題

本発表は、助詞 **ba** が対格標示以外に取り立て助詞としての機能を持つことを示し、その機能がどのような条件下で現れるかを明らかにした。主な観察・主張は以下の通りである。

- ① 助詞 **ba** には、対格標示機能とは別に、取り立て助詞（益岡・田窪 1992 参照）としての機能があり、事態の成立に関して、助詞 **ba** が後接する項の指示対象が、想定される他の候補よりも優先される文脈に用いられる。
- ② 命令文・意志文（及び勧誘文）では、助詞 **ba** は対格助詞ではなく取り立て助詞としての機能を持ち、主語にも後接しうる。
- ③ 命令文・意志文（及び勧誘文）以外では、助詞 **ba** は対格標識として機能し、他の候補より優先される文脈でも主語に助詞 **ba** が後接することはない。
- ④ ただし、主語・直接目的語以外の項については、文タイプによらず、助詞 **ba** が（格助詞の後に）後接して取り立て助詞として機能しうる。
- ⑤ 助詞 **ba** の取り立て助詞としての機能と類似した機能を持つものとして焦点助詞 **du** があるが、助詞 **ba** と異なり基本的に命令文・意志文（及び勧誘文）には用いられない。
- ⑥ 上記②・④の、助詞 **ba** が（直接目的語以外の項に後接して）取り立て助詞として機能しうる条件の共通点として、助詞 **ba** が後接する項の格関係が他の形式によって示されていることが挙げられる。すなわち、②では、述語の活用形によって 2 人称もしくは 1 人称が主語であることが示され、また④では、格助詞によって格関係が示されている。
- ⑦ 助詞 **ba** が取り立て助詞としての機能を持つことは、管見の限り、北琉球諸語では奄美大島方言のみの特徴と考えられる。同様に対格助詞として **ba** を用いる喜界島方言においては、**ba** の取り立て助詞としての用法は見られない。

表 1：=ba の分布と機能

=ba の先行要素 文タイプ	主語 =ba	直接目的語 =ba	間接目的語 = 与格助詞 =ba
命令／意思／勧誘	○（取り立て）	○（取り立て）	○（取り立て）
それ以外	×	○（対格）	○（取り立て）

今後の課題として、取り立て助詞としての **ba** の機能の記述の精緻化（「優先」の機能の詳細、与格助詞以外に取り立て助詞の **ba** が後続しうるか、取り立て助詞 **ba** と対格助詞 **ba** が一つの文で共起することはないか、など）、**ba** の機能の発展に関する歴史的研究などが挙げられる。

## 参考文献

- 蘇鉄嘉（2009）『奄美大島・瀬戸内の方言』（私家版）。
- 岩倉市郎（1941）『喜界島方言集』東京：中央公論社。
- 上村幸雄（1992）「琉球列島の言語（総説）」亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典世界言語編（下2）』, pp. 771-814. 東京：三省堂。
- 内間直仁（1978）「喜界島志戸桶方言の文法」『琉球の方言』4:65-126.
- 小川晋史（2015）『琉球のことばの書き方—琉球諸語統一的表記法—』東京：くろしお出版
- 上村孝二（1960）「奄美方言概観」『国語学』41:3-13.
- 重野裕美（2016）「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の格標識」『広島経済大学研究論集』39(1・2):81-92.
- 重野裕美・白田理人（2017）「北琉球奄美与路島与路方言の格標識」『琉球の方言』41:119-164.
- 下地賀代子（2011）「喜界島方言の格の体系」『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究：喜界島方言調査報告書』, pp. 71-111. 東京：国立国語研究所。
- 白田理人（2020）「奄美大島今里方言の埋め込み疑問文について」『南島文化』42:153-166.

- 野原三義（1989）「瀬戸内町方言助詞の研究」『鹿児島県大島郡瀬戸内町調査報告書（4）』 pp.33-73. 沖縄：沖縄国際大学南島文化研究所.
- 野原三義（2008）「喜界島方言助詞の研究」『南島文化』 30:1-54.
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版.
- まつもとひろたけ（1993）「名詞の「主体＝客体格」の用法と問題点—奄美大島北部方言（龍郷町瀬留）—」仁田義雄（編）『日本語の格をめぐって』 pp.139-161. 東京：くろしお出版.
- 三石泰子（1983）「奄美大島瀬戸内町芝方言の格助詞」『熊本短大論集』 34（1）， pp.57-88.
- 三石泰子（1993）『名瀬市の方言』東京：秋山書店
- Niinaga, Yuto. 2014. *A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language*. A thesis submitted for the degree of Doctor of Philosophy of The University of Tokyo.